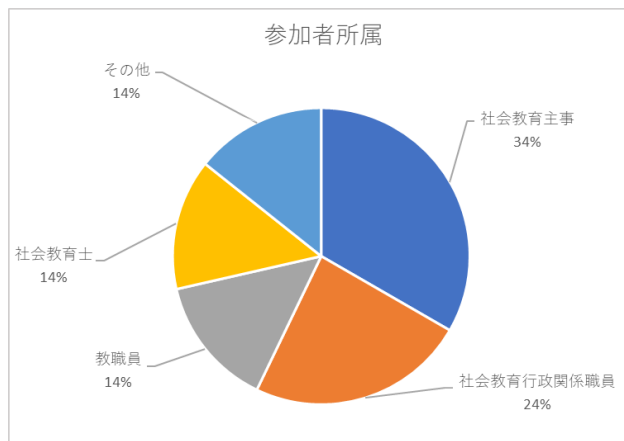


「現場で生きる “体験活動×リスクマネジメント”

～活動の意義とリスクマネジメントを学ぶ～

事業の内容

- 1 日時 令和8年6月19日（金）
13:00～14:35
- 2 場所 Web会議システム zoom
- 3 参加者 56名



I プログラム

12:50	13:00	14:30	14:35	15:00
受付	講義・質疑応答	閉会	交流・フリートーク	

<p>【講義】 「体験活動の意義とリスクマネジメントについて」</p>	<p>【内容】 体験活動の教育的意義とリスクマネジメントについて学び、活動を安全に実施するためには危機管理が重要であることを確認した。体験活動は、参加者の成長や学びを深める貴重な機会である一方、事故の可能性もあるため、リスクを減らすことを考えることの必要性について理解を深めた。</p>
<p>【講師】 北海道教育大学岩見沢校 教授 濱谷弘志氏</p>	
<p>【交流・フリートーク】 参加希望者</p>	<p>【内容】 業務に関する疑問や悩み、研修の感想交流などを自由に交流し、参加者同士がつながる時間となった。</p>

指導者とはどんな人

- ・ **インストラクター** スキルを教える
スキー、カヌー、スポーツなど
- ・ **インタープリター** 解説をする
自然観察、星、森林など
- ・ **カウンセラー** 話を聞く・相談を受ける
キャンプ
- ・ **ファンリレーター** 支援・援助をする
体験学習

教える

気付かせる

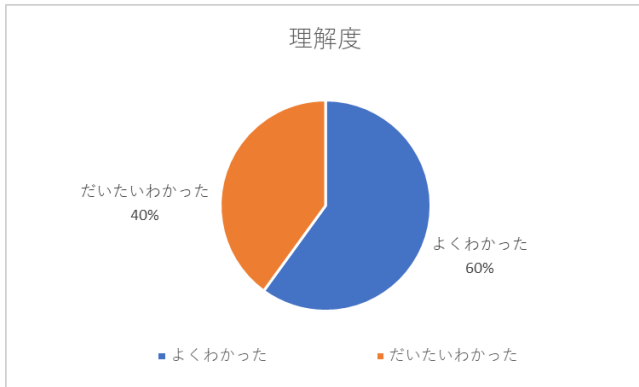
体験活動とは (文部科学白書2016)

・ 体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験

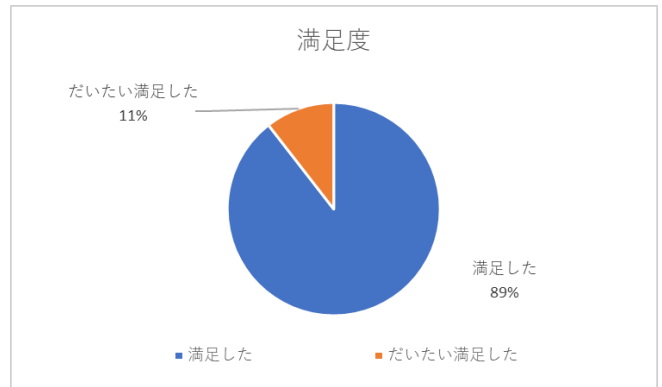
- 生活・文化体験活動
- 社会奉仕体験活動
- 自然体験活動

Ⅱ アンケート結果

1 満足度



2 理解度



Ⅲ 参加者からの声

- ・現場に即した具体的な安全管理の考え方を学べたことで、日頃の活動を見直す良いきっかけとなりました。「想定外」を減らすための事前準備の大切さと、万が一の際の速やかな対応体制について、改めて危機意識を高めることができました。参加者に体験活動を安全に提供できるよう、今回得た知見をスタッフ間でも共有し、今後の活動運営に生かしていきます。
- ・経済的に厳しい家庭の子供の約3人に一人が、1年を通じて学校外の体験を「何もしていない」という情報や子供が関心を示さないからという理由が34.3%であることなど、現代の状況を知ることができました。また資料から最近のアウトドアでの事故をまとめて知ることができて、勉強になりました。
- ・予測してトレーニングすることで、客観的な視点から準備ができると感じました。そして普段の生活にもよく納得できることが多く、とても勉強になりました。今までお手伝いをさせてもらった現場の職員さんの行動や臨機応変な対応は、こうしたことに基づいて基盤があるということを実感しました。
- ・体験活動がなぜこれほどまでに必要と言われているのか、子供を取り巻く環境の変遷を知ることができました。生活学習支援事業を行っていますが、なかなか人での問題もあり体験活動を取り入れることができずにいるので、年に何回かは実施できるよう担当者間で検討したいと思いました。

Ⅴ 担当者からひとこと

リスクマネジメントは、単に事故を防ぐためだけでなく、参加者が安心してプログラムを楽しむことや深い学びにつながる環境づくりであるということを感じました。本講座を通して、予想外の事態に備えて、リスクマネジメントを行う時の手順や事故が起きる背景を理解しておくことの大切さを確認できました。また、体験活動を成功させるためには、リスクの把握と対応力が欠かせないということ学びました。今回の学びが各地域の実践において、安全で充実した活動につながる一助になれば幸いです。

また、研修後の感想交流では、参加者同士で活発に交流する様子や社会教育に興味をもたれた方が見られました。新たにつながりが生まれたことや考えを広げられたことを大変嬉しく思います。